

●生活・法律相談は

◆市議会議員 高野 とも (7155)1683
◆市議会議員 いぬい紳一郎 (7159)2773
◆元市議会議員 せのお七重 (7146)0694

◆市議会議員 小田桐たかし (7154)0878
◆市議会議員 徳増きよ子 (7148)6871

●サラ金、交通事故、遺産相続、借地借家、教育、医療、年金、住宅、パート労働、介護、その他、困ったこと、わからないこと、どんなことでも気軽ににおよせ下さい。

日本共産党中央委員会 URL http://www.jcp.or.jp/

流山民報

2008年10・11月号

第159号

編集発行人

日本共産党流山市議団

流山市加4-1688

TEL/FAX(7157)6140

E-Mail:kfbkd645@ybb.ne.jp

http://www.geocities.jp/kfbkd645/index.htm

アンケートへのご協力ありがとうございました

願いにこたえてがんばります 日本共産党



市民要求アンケートに寄せられた願いを市長に届けました(10月7日)

「物価高で暮らしが大変」「もう政治を変えなきゃいかんよ」「日本共産党とともに、暮らしをまもる政治を」

投機マネーの暴走が、アメリカ発の金融危機をまねき、国民生活への影響が心配されています。「市場にまかせろ」と進められてきたアメリカ型カジノ資本主義の破たんです。

自民・公明による「構造改革」路線は、わが国でも様々な害悪をもたらしました。働けど働けど貧しい「働く貧困層」など貧困の拡大、後期高齢者医療など社会保障の切り捨て、汚染米問題で明らかにされた食料自給と食の安全の危機…。

日本共産党市議団が8月に実施した市民要求アンケートでは、「暮らしが苦しくなった」との回答が83%、要求を498項目にまとめ、745通におよぶアンケートの回答には、様々な要求が寄せられました。日本共産党市議団は、これらの要求を498項目にまとめ、

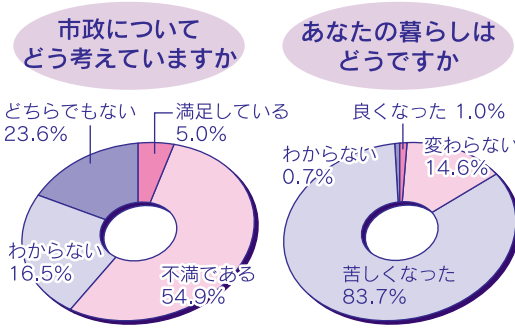
みなさんの声を市政に

自民・公明の悪政から、市民の暮らしをどう守るかが問われています。日本共産党は、暮らしを守るために、全力を尽くします。

1	高齢者の医療費負担の軽減
2	緑地の保全
3	ガソリン・物価高騰への緊急支援策
4	介護保険料・利用料の負担軽減
5	産科設置・小児救急体制の充実
6	国保料の引き下げ
7	農業振興・安全な食料の供給
8	子どもの医療費無料化の拡充
9	通学路の安全対策
10	高齢者の在宅サービスの充実

「医療費軽減」「緑の保全」「物価高騰対策」がトップ3

H21年度予算要望として市長に提出しました。願い実現のため、ともに力を合わせましょう。



無謀な開発にのめり込み 市民負担増、サービスカット次々… H19年度決算に反対 日本共産党

H19年度は、景気悪化と所得の減少、庶民増税など市民のくらしが深刻化する中、くらしを守る防波堤として、自治体の役割が求められました。ところが、市長は政府が推し進めた「構造改革」路線は批判もせず、出張所の廃止、公民館有料化

予算をつけよ」と、市民の批判を無視して、50億円をこえる小山小PFI道路、公園や歩道の整備、水害対策など身近なまちづくりの予算を削減したため、市民の要望を次々先送りしています。一方で、「開発のスピードを上げよ。優先して高を更新しました。しかし、開発にいくら

力こそいでも、開発の進捗率を単純に試算すると、今後、100年余もかかることに。また、セントラルパーク駅前市有地の活用は、応募企業がゼロ。急激な経済不況で、開発のゆきづまりは明白です。

※同趣旨の別の陳情は全会一致で継続になりました

ごみ有料化見送り、介護保険の負担軽減、高齢者の税負担軽減へ みなさんとともに実現しました 日本共産党

今、経済情勢は混迷を深め、庶民生活も負担増とサービス切り捨ての痛みが深刻です。日本共産党はアンケートなどで寄せられたみなさんの願いを市政に届け、一貫して「住民が主人公」を主張。粘り強く提案してきたことが、また実現しました。

ごみ処理

有料化でなく 分別資源化で減量へ

*** 徳増きよ子**

当初市が予定していた9月議会へのごみ有料化条例の提案が、見送られました。市民のみなさんから怒りや疑問が寄せられ、日本共産党も市民のみなさんと力を合わせて運動した成果です。



徳増きよ子
みりょうかじょうり
のていあんが、見
せらるまじり

介護保険料

減免条例ついに実現

*** いぬい紳一郎**

9月議会で、生活困窮の方の介護保険料を減免する条例が全会一致で可決されました。



いぬい紳一郎
けうごうのほう
のかいごほけんり
をげんめんするじ
ょうりがけんかい

子育て支援

すべての子どもに 国保証の発行を

*** 小田桐たかし**

貧困と格差が社会問題となる中、流山市でも、昨年社会保険推進



小田桐たかし
けうこんとかくさ
がしやかいもんじ
となるなか、りやう
しやも、こぞしや
かいほけんすいしん

流山市協議会の対市交渉で、正規の国民健康保険証を持たない子どもたちのいることが明らかになりました。

日本共産党は、児童福祉法をもとに行政の責任を追求。正規保険証を持つ子どもは1年に10回病院を受診しているのに、持てない子どもは2年に1回しか受診して

ないことを明らかにしました。

議会内外の運動で、厚生労働省が調査を実施。流山市でも9月議会で、「福祉部門と相談し、(正規保険証を発行する方向で)検討する」との部長答弁を引き出しました。

また、学校から遠い児童保育所の安全対策を提案。「国のガイドラインに沿って、学校から離れた児童クラブを学校敷地内か学校近隣へ移設させる」と議会で初めて表明しました。

高齢者支援

高齢者の負担軽減へ

*** 高野とも**

日本共産党が3年前から繰り返し求めてきた確定申告時の障害者



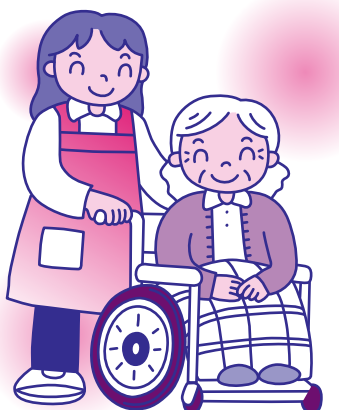
高野とも
にほんきやうたう
がさんねんから
をりかえしをう
てきたていめいし
ごうじのしょうが
じや

控除。介護認定を受けている高齢者の税負担が軽くなる制度(所得税で27万円控除など)の活用が、

昨年実現しましたが、6月議会では、税金の確定申告と同様、「5年前にさかのぼって申請できる」との答弁を引き出すことができました。

しかし、昨年度認定されたのは、わずか69件。多くの方がまだ制度的に知らずです。県内では積極的にお知らせすることで数百件になっている自治体もあります。

流山市でも、すべての介護認定者に制度のお知らせを求めてきましたが、9月議会では、介護認定を受けている約4300人すべての方に通知するための予算が決定。みなさんの声と日本共産党の提案で、また一歩高齢者にやさしい施策が前進しました。



新線沿線開発

事業のゆきづまり明白 「見直し」の声 さらに広がる

事業開始から10年が経過する中、H19年度末進捗率は平均で13.5%(面積ベース)。そのため、西平井・緒ヶ崎地区(流山市施行)では、赤字穴埋めに、総額34億円の市税を投入することに。もう事業のゆきづまりは明白です。

『市民要求アンケート』では、「緑の伐採をやめる」47.1%、「税金投入はやめる」36.3%と、市民の声は「計画見直し」が圧倒的です。

今こそ、経済情勢や将来人口もふまえて、市民の声に応えた根本的な見直しが必要ではないでしょうか。

小山小PFI事業

9千万円も高く土地を購入?

小山小学校等移転PFI事業の問題点が、また明らかになりました。

不動産鑑定価格の平均額で用地を買った場合は5億9,100万円。ところが実際、市は6億8,280万円で購入し、その差は9千万円以上。市民の税金を使うという認識が欠けています。

さらに、国から営業停止処分を受けていたために、辞退したはずの安藤建設(株)が下請けに。問題だらけの事業に、きびしい監視が必要です。

